平成３１年度　事業所別事業報告

事業所　【　法人本部　】

Ⅰ　平成31年度の状況

第四期３ヵ年計画の中間点となる「平成31年度」は、５月に新元号「令和」となり、働き方改革関連法、消費税増税など世の中の仕組みも大きく変わった。平成30年度は、記録的な大雨や猛暑だったが、平成31年度は幸いに天候等による被害はなかったが、昨年12月以降、新型コロナウイルス感染症が短期間で全世界中に広がり、当法人でも感染症対策として利用者の面会制限やボランティア受入中止、行事の自粛など感染症対策に追われている。

各事業の経営状況としては、介護老人福祉施設で近年ないほどの死亡退所がありベッドを空床にすることが多く見られ収入を減少させることになった。その他短期入所生活介護事業（ショートステイ）や通所介護事業（デイサービス）でも数多くの方が、介護老人福祉施設等の「入所施設」に入所されるなど、在宅サービスの利用が減少するのと、軽度者の利用にシフトし、収入が減少した。

令和２年度も、新型コロナウイルス感染症で利用（収入）に影響すると考えられるが、ご利用者の生活を守るため、福祉施設として、地域の高齢者の安心、安全に寄与できるように、最善を尽くしたいと考えます。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	コンプライアンス（法令遵守）の強化	・過去の法人指導監査指摘事項の拾い出しと点検 平成30年12月4日にうけた法人指導監査(鳥取県)については、指摘内容を検証し、すべて改善した。令和元年12月10日にうけた法人指導監査(鳥取県)では、あらたな部分の指導・指摘をうけたが改善した。(鳥取県ホームページで公表されている。) ・虐待及びハラスメントの防止に努めた。(ハラスメントの防止に関する方針:R2.2.10) 2月25日の全体会(研修)において改正内容および相談窓口を職員に説明・周知した。
	②	非常時における安全確保・対策	・防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練　2回実施した。 夜間通報訓練　2回実施した。(そのうち1回は抜き打ち) GH仁の里 避難訓練　2回実施した。 三喜苑西郷 避難訓練　1回実施した。 ・三朝温泉三喜苑「避難確保計画」及び「防災計画」見直し中 ・防災研修を実施した。(6月25日全体会(研修)) 81名参加した。(欠席者:伝達研修実施) ・徳本地区急傾斜地崩壊対策工事が開始した。当法人所有地の土地(一部)を工事用道路の用途に供するため鳥取県と土地賃貸借契約を締結した。 ・職員の労働災害:4件あった。（内訳:通勤災害1件・業務災害3件)
	③	苦情の解決・リスクの管理（マネジメント：管理・分析・改善・成果を引き出す）	・苦情相談受付件数　10件 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策・解決結果について確認した。 ・職員状況　採用16名・退職19名 ・労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、人材紹介会社への情報収集・発信、各種就職フェアへの参加などを実施（採用経路：ホームページや知り合いの紹介など・ハローワークからの紹介で5名採用・人材紹介会社からの紹介で2名採用） ・育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。（育児休業中又は復帰後に退職した者：なし）
能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	・各種研修会を毎月実施 全体会（毎月開催）：平均77名参加。（前年度76名） 職員研修（年間５回）：平均22名参加。（前年度27名） 施設外研修　延べ226名参加。（前年度 延べ259名） 新人研修（年間３回）：対象者8名。（前年度18名） ・平成31年度実績（取得状況） 介護福祉士1名／各研修等修了者：認知症介護実践者研修3名、認知症介護実践リーダー研修3名、喀痰吸引1名、ケアマネ更新研修１名（3名受講中）、主任介護支援専門員1名、防災管理者1名、幼児体育指導者２級1名、鳥取県保育士等キャリアアップ研修5名（乳児保育1名、食育・アレルギー対応1名、保護者支援・子育て支援2名、マネジメント研修1名）が取得した。 ・施設内研修（新人研修・職員研修・全体会）については、アンケートを実施し、研修の評価・振り返りをおこなった。 ・全体会…平成30年度に引き続き欠席者の研修（受講・理解・伝達）が課題となっていたが、平成31年度は、研修そのものを撮影（映像）し、欠席者が後日受講できる仕組みを作った。（状況確認：研修委員会を中心に検証していく）

能力開発	②	給与・働き方に関する規程の見直し（同一労働同一賃金への対処）	・働き方改革関連法への対応を踏まえた各種規定の研究や見直しを行った。 ・年次有給休暇の確実な取得（年5日以上の取得）に向けて就業規則を改正した。 （施行日：平成31年4月1日 年5日以上の有休取得、半日単位の有休取得制度導入） ・年次有休休暇の確実な取得に向けた仕組みについて新規採用者研修時の説明や衛生委員会、主任・リーダー会への情報提供等により全職員に周知した。 ・7月30日倉吉労働基準監督署の立入調査（抜き打ち）を受け、指摘及び指導事項に対する回答・報告を行った。 指摘及び指導事項の内容と報告内容： ①時間外労働に関する協定届の労働者への周知について是正を求められた。 時間外申請・指示簿に取組内容を掲示し、周知を図った。（7/31実施） ②時間外申請とタイムカードの間に乖離があり改善を求められた。 タイムカードを各事業・セクションに設置し（9/20）、より適正に把握できる様に改善した。 又、実施後の状況についても報告した。（9月から11月分賃金まで状況報告）
	③	業務の見直しと効率化（ICT活用／業務手順の見直しと統一）	・4月介護記録システム導入 ⇒ 7月1日運用開始 （特養／短期／ケア／デイ／三喜苑西郷） 記録の入力はできつつあるが、有効な活用（業務改善・効率化）は、今後の課題（来年度以降）である。
地域	①	ヒト：職員の派遣（研修講師・介護教室など）／ボランティアの活用・見直し	・ボランティア受入人数　延べ694名（うち学生ボランティア 延べ93名） （平成30年度：573名） （新型コロナウイルス感染症対策：令和2年2月18日から受入を中止している。） ・講師派遣（計15回派遣）…介護支援専門員研修会 3回 三朝町社会福祉協議会主催 健康教室 12回
	②	モノ：非常時における避難（スペース有効利用）／情報開示・発信（ＨＰ・広報誌）	・情報公開：ホームページ（ＨＰ）等に必要事項を掲載、開示している。 （法人事務所（玄関）でも情報公開している） ・機関紙「太陽」年４回発行した。（96号～99号） ページ数を４ページから６ページに増やし、内容・情報量を拡大させた。 ・平成31年度から三朝町全戸（約2,200部）に配布した。 ・福生会ニュース（ホームページ） 月平均 17件情報発信（アップ）した。（平成30年度：平均17件） ・「広報」の研修会に参加した。 研修を活かし、ＨＰのトップページの写真をリニューアルした。（笑顔の写真）
	③	カネ：社会福祉充実残額の算定と計画	・平成30年度における、社会福祉充実残額△315,710,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取組み（地域貢献）は実施した。 ・新調理システム（仕組）：真空調理（クックチル）の導入。 （令和元年11月1日から一部導入／令和2年3月1日から完全導入） 公益的な取り組みについて ・福生会祭り6/15開催…来場者300名。　（平成30年度：来場者200名） ・論語三代11/23開催…来場者約120名。　（出演園児・スタッフ23名除く） （平成30年度：200名　スタッフ20名除く） ・認知症カフェ（わらわぁ会）…年間36回開催　延311名参加あり。
業務	①	支出管理の強化（増税対応含む）	・月毎の予算執行状況を各課長に報告し、支出状況等の情報共有ができた。 ・予算超過、水道・電気等の使用量の急激な増減等があれば随時、各担当課長及び主任に確認し、原因把握と注意喚起に努めた。
	②	設備投資と計画（エコ・大型機器の入れ替え・計画）	・居室のエアコン（一部）、厨房機器の入れ替えを実施した。 ・平成30年度の建物定期検査指摘事項により「ケアハウス三喜苑渡り廊下屋根修繕工事」を実施した。 ・照明設備の不良による入替は、努めて省電力のＬＥＤ照明に入替した。
	③	法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	・現況報告書：鳥取県法人指導担当の指導に従い修正した。 ・内部監査機能（体制）がきちんとできていない。機能・体制について検討する。

平成３１年度　事業所別事業報告

事業所　【　介護老人福祉施設　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

IVHや胃ろう等医療依存度の高い方が入退院を繰り返されたり、高齢化に伴い他のご利用者も誤嚥性肺炎等で入院をされるケースも多く見られた。施設内でも点滴治療など医療依存度の高い人が増えてきている。

各専門職がその専門性を発揮し、多職種で連携を深め適切なサービスが提供できるように努めた。

今年度、24名の方がお亡くなりになった。新規のご利用者の受け入れに日数がかかってしまったことと、入院者が多かったことにより、収入減に繋がってしまった。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	専門的な介護サービスの提供	・月1回認知症ケア会議を開催し、認知症介護について検討した。 ・認知症学習療法の実施（対象者5名　週3回） ・11名の看取り実施。家族の意向に沿ったケアを行い、家人が遠方で来苑出来ない方には電話で連絡を行った。 ・終末期に関する意向をその都度確認を行い、思いに寄り添えた。 ・月1回、歯科医師による勉強会を実施した。 ・口腔ケアに関して歯科医師に相談し、助言や指導を受けた。
	②	自立支援の介護の推進	・下剤服用者をなくす努力はしたが、オムツ外しは未達成となった。オリゴ糖、食物繊維の摂取者を増やし便性状の改善、下剤服用回数の減少に繋がった。 ・毎月食事観察を行い、必要な方に対し食事の形態を随時見直しを行った。
	③	安心、安全、満足の得られる生活の提供	・調理活動を毎月実施。利用者の参加人数が増えている。 ・虐待の芽チェックリストを実施し、改善の必要な項目について、対応策を検討した。 ・接遇力向上の為、目標を決め各セクションで評価し、改善に繋げた。 ・年度当初は8名褥瘡があったが、現在は1名となった。早期の対応で、褥瘡の発生を抑えることができた。 ・2階浴室改修については、来年度の計画とした。
	④	病院との連携をはかる	・連携室を通して通院等の調整を行い、スムーズな受診に繋げた。 ・谷口病院との意見交換会を年2回行い、課題・要望等について話し合った。
能力開発	①	特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	・リスクマネジメント、感染症予防、身体拘束、排泄ケア、口腔ケア、看取り介護、認知症介護について各年1回研修開催。 ・排泄ケア、メンタルヘルス等については、各ユニットで勉強会を行った。
	②	対人援助技術を高める	・施設全体でのコミュニケーション研修に参加。次年度はミーティング時に研修を実施していく予定。 ・ストレスマネジメントについての勉強会実施ができなかった。
地域	①	地域の保育園や小中学校と連携や交流をはかる	・年間の計画通り交流会を実施した。 ・三朝小学校、賀茂保育園、みささこども園の運動会、音楽会等に参加した。
	②	地域交流会、わらわあ会へ参加する	・年間通して参加できず。次年度は参加自体を検討していく。
	③	福生会ニュースを掲載する	・目標：週1回以上。年間15回の掲載（情報発信）にとどまった。
業務	①	腰痛で休む職員をなくす	・リフト、スライドボード等福祉用具を活用することで腰痛予防をすることができた。
	②	記録業務のシステム化（ICT化）	・7月より導入開始。定期的に勉強会を実施し、随時指導を行い職員がシステムが使えるようにした。 ・必要不必要の見極めを行い、転記を少なくした。
	③	安定的経営を目指す	・平均入院者数4.1人/日

＜平成３１年度入所者状況＞
平均要介護度：4.1
退所者数：26名（看取り12名、病院退所2名）
待機者数：91名

※参考：平成３０年度
平均要介護度：4.2
退所者数：17名（看取り6名、病院退所3名）
待機者数：108名

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　短期入所生活介護事業所　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

ショートステイの利用者は、要支援から医療的対応が必要な重度者まで幅が広く、在宅生活の継続の視点から特養利用者よりもきめ細かいサービス提供が必要である。またサービス利用を調整する居宅のケアマネジャーとの連携が重要である。三喜苑において特養を待機している利用者が増えている影響で、重度の方が多い。それによって現場職員の業務量が増えている。

自宅での生活が難しくなられる人も多く、体調不良の為、病院で過ごされる方やお泊まりデイを利用しながら、次の施設入所を待たれる人が増えてきている。定期的に自宅からショートステイを利用される人が少なくなり収入減となった。ロングショートの受け入れ人数も調整しながら、各関係者と連携を図り、新規獲得に努めていく。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	機能訓練の計画作成、他医療機関等の連携とアセスメント等の充実	・年度末時点で2名の方が対象。今後、対象者を増やしていく方向でも検討。 ・今年度2名が対象。毎月谷口病院から理学療法士の来苑あり、評価も実施して頂き、個別訓練に活かせている。
	②	認知症利用者への適切なサービス提供	・認知症日常生活自立度Ⅲ以上の受入れ（55.3%） ・年間通してケア会議の中でショート利用者の関わりについて検討を行った。（月1回） ・学習療法‥対象者4人でスタートし年度末には5名に実施（週３回実施）。学習療法センターが定める資格のマスターを１名、実践士を３名習得した（職員）。
	③	利用者のニーズに合った細かい対応と業務の見直し	・今年度トラブル8件発生。同様のトラブルを起こさないよう会議を開催し対応内容を検討した。
能力開発	①	認知症利用者への対応力向上	・特養ミーティング内で実施。施設内研修実施。認知症介護実践リーダー研修1名修了。
地域	①	居宅ケアマネジャーとの連携	・サービス担当者会議の出席（ケアマネからの依頼時）100％参加。
業務	①	利用者確保	・利用者実績14.7人/日。目標を下回った。
	②	夜勤職員配置加算の算定要件確保	・認定特定行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）の夜勤者配置（毎日1名）を実施した。

平成３１年度　事業所別事業報告

事業所　【 通所介護事業所　】

Ⅰ　平成31年度の状況

地域包括支援センターや各居宅介護事業所、病院等と連携し重度の方の受け入れも行うことで、事業所からの紹介もあり、デイ利用者数は確保できていた。しかし、施設入所や入院等により重度の方のデイ利用の中止が多くあった。今後は、入院者に関して長期になる方の対応の調整をケアマネと図ると共に、新規利用者の獲得につなげていく必要がある。また、少しでも在宅生活が続けていけるように、異常の早期発見と重度化防止のため介護とリハビリとの連携が、ますます重要になってきている。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	・機能維持・向上者数70％達成ならず。(50%) ・機能訓練1日平均20人以上実施（月約延べ400名実施） ・バーセルインデックス（ADL（日常生活動作）を評価する方法の一つ）毎月50人～60人実施。R2年度もADL維持等加算継続取得。 ・体力測定6月（30名）、12月（31名）実施。個々の状況を把握して、今後につなげていく。
	②	能力に応じた自立した活動の提供	・個別アセスメントシートに情報等入力した。今後は活用の幅を広げていく。 ・趣味活動の提供　体を動かすレク（1日平均23名参加）、テーブルレク（1日平均5名参加）、物つくり（1日平均5名の参加）を利用者の希望に合わせて実施。 ・学習療法を継続実施。月平均15回実施（月平均参加者24名）　実践士2名習得 ・デイミニ作品展を6月、2月に実施。作品を廊下に展示ゆっくり見られると喜ばれた。
	③	家族・各事業所との連携強化	・事業所訪問件数は平均10件/月訪問。相談件数は20件/月以上。 ・家族懇談会を7、11月に実施。計3名参加。 ・家族アンケート実施（11月）89名に配布62名の回答あり（回収率70％）
能力開発	①	資質向上と人材育成	・合同勉強会を開催（5月接遇、7月認知症、10月感染症　12月ノーリフティング）／レクリエーション研修への参加　3月は感染症拡大につき中止。その他は実施月に職員1名参加した。研修で学んだことを日ごろのレクで活用した。 ・施設内研修には延べ26名参加。施設外研修は延べ7名が参加。
	②	専門性向上の資格取得の推進	・認知症介護実践リーダー研修1名修了。 ・認知症加算の取り組みでの年度評価実施。利用者に対する認知症（Ⅲa）の方が少なくなり来年度は加算が取れなくなった。（総利用者に対し認知症（Ⅲa）の方が2割いること）
	③	接遇の向上	・三喜苑西郷との合同勉強会で接遇研修を実施。全体会の接遇研修にも全員参加した。また、サービス向上委員会の接遇チェック項目に取り組み評価を実施、改善してほしいところを皆で確認しあうことで、あいさつや言葉遣いが改善した。
地域	①	出前レクリエーション、介護教室の実施	・出前レク11回（余戸5名、神倉9名、曹源寺9名、本泉8名、下畑5名、加谷6名、片柴8名、高橋6名、三朝22名、久原13名、神倉10名参加） ・介護教室1回　神倉（熱中症について）9名参加。
	②	地域交流会への参加	・三朝をなんとかしよう会　年3回開催され、延べ5名参加。 ・賀茂祭り（6月）竹田祭り・大原祭り（8月）に各2名参加。三朝町駅伝（11月）に3名参加。
業務	①	安定的な経営	・利用者数実績：介護保険利用者31.6名/日（要介護24.4名/日（目標27名/日）要支援7.2名/日）自立利用者3.7名/日（新規利用者14名/年、利用終了者21名/年） ・収入月額　平均700万円。目標の750万円は達成できず。 ・年4回デイ新聞を発行し各事業所に配布、利用者募集もお願いした。
	②	業務改善	・ケース記録、通所介護計画書等、データ移行、データ管理ができ記録時間の短縮につながった。 ・各業務マニュアルを修正。管理職、専門職分は今後修正予定。 ・担当業務の遂行の確認を行い、できていないところは相談・改善した。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・送迎中に車両事故２件あり（自損事故）／労災は発生なし。 ・時間外労働については、上限規制を遵守できた。 ・職員全員が、有給休暇を年５日以上取得できた。

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　ケアハウス　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

各種レクリエーションや早口言葉等で頭を使うことと、ラジオ体操等で体を動かすことを継続し、身体機能や認知機能が維持できた。要介護認定を受けておられる方も介護度が維持でき、改善された方が１名あった。一方で、救急搬送された方が３名あり、1名の死亡となった。その他、グループホーム入居１名、入院で利用対象外1名、自宅復帰１名あり、計６名の退居者があった。

各事業所と連携し、利用者の確保に努めたが、急な退居もあり満床が維持できなかった。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	サービスの質の向上（全体）	・認知症予防レクリエーションを、午後の体操の時間に継続して実施し、認知機能を維持できた。また、ボールや棒を使った体操も組み込み、間に思い出しトレーニングやシナプソロジー（認知機能の維持・向上に役立つプログラム）を実施した。（週６日） ・ミニ講座は計画通り実施できた。質問される方もあり、振り返りもでき好評だった。（ミニ講座５回：リハビリ・認知症・防災・感染症予防・栄養） ・７月、１０月、２月に三朝町スポーツ推進委員の協力を得て体力測定を実施し、９月、１２月に職員で握力測定を実施した。結果を入居者に伝えることで、毎日の体操の励みになった。体力測定の項目を実施することが難しい方が増え、出来る範囲での測定となった。
	②	サービスの質の向上（個人）	・学習療法は対象者１名であるが、平均週４回実施できた。 ・個別対応を年１人１回以上実施した。蕗やきのこを取りに出かけたり、花見や外食、買い物、自宅訪問等希望にそって対応することで、満足していただいた。 ・毎月、入居者の近況報告と行事予定をご家族に手紙でお知らせした。来苑時にも入居者の様子を報告し、連携をはかった。
能力開発	①	人材育成と資質向上	・認知症について、定期的な学習はできなかったが、職員研修の内容を職員で再学習したり、ケアハウスでの事例を検討した。 ・レクリエーション研修が１回中止となり、外部研修１回、施設内研修１回の参加であったが、伝達研修を実施し、職員それぞれがレクリエーション活動に活かしていった。
	②	接遇力向上	・サービス向上委員会のチェック表に基づいて評価を実施した。「です、ます」の使用、「語尾をあげる」、「傾聴」、「目線の高さを合わせる」に取り組んだが、傾聴が難しく、評価がよくならなかった。
地域	①	地域、保育園、小・中学校との交流	・月１回のしゃくなげ喫茶を楽しみにされ、毎回参加される方が数名あった。 ・陣所、地域交流会（5月、12月）、キュリー祭、みささ健康福祉フェア、レスポワール祭り、わらわぁ会等、各種行事をお知らせして、参加を促した。（延べ参加人数13名）
	②	地域貢献の実施	・保育園に手作り雑巾を届けた。（年1回）雑巾作成時の楽しさと、提供時の園児の姿に喜びを感じられた。園児から感謝の言葉を受け、生きがいにつながった。
業務目標	①	記録業務のシステム化	・7月1日から活用開始。記録が一覧で確認できるようになり、入居者の様子が把握しやすくなった。また、申し送りや事務連絡をノートに転記する手間がなくなった。 ・いつでもパソコンに入力できるので、手書きの時より記録量が増え、より情報が伝わりやすくなった。
	②	安定的経営	・10月、12月、2月に1部屋空きがあった。各前月末に急な退所があり、居室の清掃が、入所初日に間に合わないこともあった。 （入院日数延べ426日）（平成30年度 入院日数延べ260日）
	③	ホームページの活用	「福生会ニュース」年間掲載件数23件。ケアハウスでの行事、日常の出来事をタイムリーに掲載し、利用者情報発信に努めた。

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　グループホーム　仁の里　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

急速な少子高齢化により、独居高齢者などの1人暮らし世帯が増加している。誰もが安心、安全に暮らし続けられる地域を実現する為、地域支援の担い手としての役割もグループホームとして重要である。認知症カフェ（わらわぁ会）や地域交流会を継続して実施することで、認知症予防にもつながり、地域に貢献できつつある。

今後も職員全体のさらなるレベルアップや資質向上が必要である。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	楽しみや喜びのある暮らし作り	・調理活動や洗濯物干し、シーツ交換等家庭生活の継続を支援した。 ・ドライブや近辺の散歩、月々の行事を実施した。（お花見、紅葉狩り外食、海岸ドライブ）
	②	心身機能を維持し、活力のある生活を送る	・体操、リハビリメニュー（谷口病院 理学療法士による）を毎日実施した。 ・行事ごとのお祝い膳、誕生日のリクエストメニューを実施した。 ・かかりつけ医及び特養看護師へ相談し、受診する等早期対応し、健康維持に努めた。
	③	地域とのつながり・開かれた施設を目指す	回覧板届けを実施した。（利用者・職員）
能力開発	①	学ぶ意識・資質の向上を目指す	・連絡ノートでの利用者の健康状態の情報を共有し、周辺症状に伴った統一した介助を提供した。 ・各種研修会に参加した。（防災、感染症、認知症） ・全体会等、当日欠席者はビデオで伝達研修を行い、職員全員に周知した。
	②	認知症に関わる資格取得	認知症介護実践者研修に1名参加し修了した。
地域	①	運営推進会議の開催	運営推進会議年６回開催した。事故対策や、避難訓練等の助言をいただいた。
	②	防災訓練の実施	・防災訓練を実施（11月17日）し、９名参加した。 三朝町消防団（三朝地区団及び山田班）に協力いただいた。
	③	地域に貢献する	・地域交流会を年４回開催した。（わらわぁ会参加兼ね実施） ・認知症カフェ（わらわぁ会）の継続。（月4～5回）平均参加者８名あった。
	④	地域を理解し信頼関係を築く	とんどさんに利用者１名参加した。また、地域の奉仕作業に職員１名（年２回）参加した。
業務	①	働きがいのある環境を整える	・職員全員が、有給休暇を年５日以上取得できた。 ・記録の時間を早めに設ける等、残業を減らし、終業後３０分以内に退社できるよう努力した。
	②	安定的な経営を目指す	・入院者が多かった（入院日数延べ108日）。また、新規の入居までに時間がかかるケースがあり、空き室もあった（空き室日数21日） ・リハビリ加算　9名取得。
	③	接遇力の向上	仁の里での接遇評価に合わせて、サービス向上委員会の個人評価を定期的に実施した。「努力中」の評価が多く、改善は来年度の課題とした。

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　認知症対応型通所介護事業所　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

誰もが安心、安全に暮らしていくために、認知症カフェ（わらわぁ会）や地域交流会の実施は認知症予防にもつながり、地域貢献の一つとなっている。

自宅での生活を継続していくうえで、認知症の進行を抑えることは重要ではあるが、施設入居やショートステイを希望されるご家族も増えてきている。

昨年度と比べると、下半期で利用者増につながった。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	楽しみや喜びのある暮らし作り	・ご利用者の希望に添った生活、手芸等特技を活かした関わりや、調理活動を通した家庭的な時間を提供した。 ・天候に合わせご利用時の散歩、日光浴を実施した。また、図書館や雛めぐり、紅葉狩り、外食等にでかけた。
	②	心身機能を維持し、活力のある生活を送る	・連絡ノートでご家族と情報を共有した。 ・下肢訓練体操や脳トレを実施した。また、利用中に歩行の機会を増やすことで、健康増進に取り組んだ。
能力開発	①	学ぶ意識・資質の向上を目指す	研修資料等を個々での学びに活用した。外部研修へは参加できなかった。
地域	①	地域で助け合いが出来るようニーズを理解する	・地域交流会へ参加した。（年２回、参加者３名） ・認知症カフェ（わらわぁ会）へ参加した。（参加者２名）
	②	防災訓練の実施	・地区消防団との防災訓練は日曜日実施のため参加できなかったが、自施設の防災訓練（地震、火災）はグループホーム入居者と一緒に参加した。（３名参加）
	③	地域を理解し信頼関係を築く	保育園児との交流会に参加した。
業務	①	働きがいのある環境を整える	職員全員が、有給休暇を年５日以上取得できた。
	②	安定的な経営を目指す	月平均利用者数延べ４５人で、目標達成できた（目標：延べ人数月45人以上）（利用登録者４名、平均要介護度３）
	③	接遇力の向上	・笑顔であいさつと、柔らかな言葉遣いに心掛けた。 接遇評価表による評価で、自己・他者評価共に「できた」との評価だった。

定員　　３人
最大利用人数　稼働日数312日×定員3人＝936人
利用率　　利用者延べ人数542÷最大利用人数＊100＝57.90％
１ヵ月あたり　延べ45.17人利用

平成３１年度　事業所別事業報告

事業所　【　三喜苑西郷　】

Ⅰ　平成31年度の状況

地域包括支援センターや各居宅介護支援事業所等と連携を図りながら重度の方の受け入れも行った。しかし、利用中に、入院や施設入所で利用中止される方が多く利用者を増やすことができなかった。自宅生活が継続していけるよう日々の健康管理と異常の早期発見と家族、介護支援専門員との連携が必要である。各職員が各種研修に参加したことで、資質向上につながり、介護福祉士の資格取得、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修等を修了した。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	・個別機能訓練計画書47名作成（機能訓練29名、運動向上18名）、延べ2,460名実施した。 ・機能訓練44名中、介護度維持向上者数41名。（93%） ・体力測定5月24名、11月25名に実施。結果を連絡帳に貼りつけ見える化し、状態維持につなげた。
	②	能力に応じた自立した活動の提供	・利用者の要望を聞き取り提供した。（塗り絵、折り紙、パズル、脳トレプリント、写経、ペダル漕ぎ、五目並べ、将棋、囲碁、生け花、物つくり、調理活動、読書、習字等） ・午前のプログラムに、生活リハビリ体操を導入し実践した。
	③	各事業所との連携強化	・毎月紹介事業所へ実績報告に訪問、空き情報を伝え紹介をお願いした。 ・サービス担当者会議81件すべて出席、利用者の状況報告を行った。
能力開発	①	資質向上と人材育成	・年４回通所合同勉強会を実施した。（89%） ・施設内研修（62%）全体会（92%）に参加。 ・施設外研修６名参加。
	②	専門性向上の資格取得の推進	・認知症介護実践者研修1名修了。 ・認知症介護実践リーダー研修1名修了。 ・介護福祉士国家試験1名合格。
	③	接遇の向上	・接遇研修2回実施、延べ13名参加した。（72%） ・接遇評価と振り返りを毎月実施し接遇力が向上した。 ・利用者、ご家族アンケートを実施した。（年1回）
地域	①	地域の方との繋がりを大切にする	・伊木地区奉仕作業（春・秋の２回）、わいわいパレード（職員が参加）、西郷地区サラバンダ作品展示（利用者の作品を展示） ・ボランティア延べ５７名（囲碁対局、音楽教室、演芸、レクリエーション等）実習生延べ３名受入。（倉吉北高インターンシップ３日間１名、中高生夏休み介護の仕事体験事業１日２名）
業務	①	安定的な経営	・三喜苑西郷の新聞を毎月発行。居宅介護支援事業所への実績報告時（毎月）の配布しアピールを行ったが、新規利用者獲得は伸び悩み、収入月額210万円となった。 ・稼働率68%、延べ利用者数3,527名、稼働日数258日。要介護者実績8.3名/日（目標：要介護者実績10名/日）支援・事業対象者2.8名/日、自立利用者2.5名/日（新規利用者27名/年、利用終了者19名/年）
	②	業務改善	・介護記録システム導入により記録時間の削減ができた。 ・マニュアルの確認は行ったが見直しまでには至らなかった。 ・業務分担表の作成により役割が明確となり日々の業務は遂行できた。 ・経験値や能力により仕事量に偏りが出てしまった。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・労働災害（行事中の骨折）１件。 ・時間外労働については、上限規制を遵守できた。 ・職員全員が、有給休暇を年５日以上取得できた。

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　居宅介護支援事業所　】

Ⅰ　平成31年度の状況

厚生労働省は、団塊の世代が７５歳以上となる２０２５年を目途に、重度な要介護状態となっても認知症となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域での生活を支える住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。地域包括ケアシステムでは在宅医療・介護連携の推進が不可欠であり、平成30年度の介護保険法改正においては、特に医療との連携強化を重要視され、医療機関との連携を積極的に取り組む居宅介護支援事業所は高く評価されるようになった。また、末期の悪性腫瘍利用者へのケアマネジメントの見直しもなされ、今後はこれまで以上に、介護支援専門員、居宅介護支援事業所としての状態変化の把握や判断等、切れ目なく適切な医療・介護サービスを提供できる力量が求められており、医療（利用者のかかりつけ医療機関等）と入退院時だけではなく日頃から連携を図ることに努めた。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	・情報伝達会議で月1回一連のプロセスや手法の再確認・見直しを図った。
	②	医療との連携を強化し、入退院支援の充実を図る	・入院した利用者の情報提供を、病院へ入院3日以内に行うことを目標とし実践できた。 ・入院した全ての利用者が退院する時には、病院看護師等に状況確認を行い、必要に応じケアプランの変更や会議を行い、退院後の生活に支障がないよう調整した。 ・上記2点を会議や管理表を用いて確認。入退院支援がスムーズにできた。
能力開発	①	研修等に積極的に参加して得たことを、自分の業務やケアマネジメントに活かし評価する	・事例検討会を予定通り開催し多部署、多職種の方の意見をもらい、実際の支援に繋いだ。（法人内6回・居宅内5回・他法人2回）また、事例検討会の開催により、事例作成力や説明力、進行力の向上につながった。 ・ケアマネ協や地域づくりしょいやの会、その他各種研修に参加し、情報伝達会議で伝達をしたが、理解度や活用の評価まではできなかった。
	②	認知症利用者への対応強化	・認知症の利用者を事例検討会に取り上げた。また、三朝をなんとかしよう会が開催した認知症に関する映画上映会や、地域包括支援センター連絡会に参加し、認知症利用者への対応強化を図った。
地域	①	多職種、多事業所、インフォーマルサービスとの関わりを強化する	・利用者に各事業所のサービス内容を説明できるよう事業所の見学、意見交換会を実施した。 （サービス付き高齢者向け住宅シニアステージ上井、ル・ソラリオン） ・愛の輪相談員、通院介助について情報伝達会議で詳細を確認した。 ・三朝をなんとかしよう会の会合に参加し、町内他事業所と意見交換を行った。
業務	①	利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護は８４件／月、介護予防（介護予防・日常生活支援総合事業含む）プランは４２件／月）	・流れや書式を確認し、業務や管理がしやすくなるよう適宜検討し、必要に応じ、書類等を変更した。 ・ケアプランや会議録、支援経過等を、管理者が適宜確認した。 ・困難事例は情報伝達会議で、情報共有や支援内容を検討した。 ・要介護利用者月平均86.0件、介護予防（総合事業を含む）利用者月平均39.0件。
	②	業務内容と体制の見直しを行い、残業時間を減らす	・営業時間外を明確にするため、土・日曜日・祝祭日及び平日17：30以降は電話を転送し、事務所のロールカーテンを閉めることを実施した。 ・担当件数上限が1人35件を上限となるよう調整し（要支援事業対象者は1件を0.5件で計算）、業務量を減らした。

＊認知症に関する映画　「ぼけますから、よろしくお願いします」
（認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー映画）

平成３１年度　事業所別事業報告
事業所　【　賀茂保育園　】

Ⅰ　平成３１年度の状況

平成３１年度より三朝町の３つの小学校が統合され三朝小学校となった。新保育所保育指針でも小学校との連携を密にすることが求められており、小学校入学までに育って欲しい姿に近づけるため接続カリキュラムを作成した。小学生との交流も１年生だけでなく５年生との交流会を２回実施し、入学してからの学校生活をスムーズにするための取り組みをおこなった。地域貢献と低年齢児の獲得のため取り組んでいるオープンデーは、回数を増やし４回実施したが、出生率の減少と、低年齢児の就園率が高くなっているためか前年度（延べ２０名）に比べ、延べ８名の参加であった。今後の出生率の減少に伴い、低年齢児を獲得するための対策を考えていかなければならない。保育園の特色としては論語教室やお茶会・坐禅を通しての心の教育の他に、発達年齢に応じた運動遊びや自然の中での活動は、年間計画を作成し、園全体で取り組めるようになった。

Ⅱ　目標

項目	重点目標		評価
サービス	①	質の良い保育の提供	・２月に実施した保護者アンケートにて、全体の９０％以上の高評価を得た。 ・自然体験活動や運動遊びの年間計画を作成し、園全体で取り組むことで活動も定着してきた。
	②	子どもの発達保障	・進級・進学に向け、つなぎを考えた年齢別到達目標にそって各クラスで取り組めた。 ・小学校へ向けての接続カリキュラムを作成することができた。
	③	安全・安心な環境整備	・感染症予防のために、本年度特に衛生管理を徹底した。 ・事故防止及び安全対策の実施。（園外保育での下見と事前の打合せ、実施後の反省会を定例化できた。）
	④	情報提供	・園だよりやクラスだより、福生会ニュース（ホームページ）で園児の様子や活動を発信できた。 ・論語、食育、絵本通信を年３回発行し、取り組みの様子を伝えた。
能力開発	①	職員の資質向上	・自己評価に基づき課題を見つけ、改善に努めた。 ・年齢別に２つのグループで研究テーマを設定し、２年計画で取り組み、隔年で１グループずつ発表するようにした。
	②	研修への参加	・幼保相互理解研修に６名が参加し、他園（６園）の保育指導を学び、研修報告を実施し、情報を共有した。 ・鳥取県が実施する保育士等キャリアアップ研修を６名が受講した。
	③	公開保育の実施	・公開保育を実施し、県の担当課、町の教育委員会、他園保育士より指導助言を受けたり町内の他園の公開保育を見学したりした。
地域	①	他園・小・中学校との交流との交流	・町内の園児との交流会（年長児、竹田保育園）年３回実施した。 ・小学校とのプール交流、お茶会交流など年２回実施した。 ・中学生のトライワークとして３名の保育体験の受け入れをした。
	②	福祉施設・地域との交流	・老人福祉施設訪問を５回実施し、ご利用者と一緒に製作したり、歌やダンスを披露したりして喜んでいただいた。
	③	地域社会への貢献	・小、中学校の夏休みボランティア活動を受け入れた。（延べ３２名） ・地域でのイベントへの園児の出演や、作品展示などに協力した。 ・未就園児対象のオープンデーを４回実施した。
業務	①	職員間の協力体制	・園行事への協力体制を整え、全員が役割を持って参加できるようにした。 ・クラス、未満児、以上児担当など小規模のミーティングを定例化し情報が共有できるようにした。
	②	保護者との信頼関係作り	・降園時を利用し、保育士がその日の子どもの様子を必ず伝えることを心掛け、保護者からも園での子どもの様子がよく分かったと高評価を得た。 ・保育参観を年１０回実施し、保護者に園での活動の様子を見ていただいた。 ・クラス懇談会年３～４回、個人懇談を年１回実施し、必要に応じて個別に面談を実施し、保護者支援をおこなった。
	③	安定的な経営	・消耗品、水光熱費等の削減を検討し、職員にも節約を呼びかけた。 ・園児数、初日在籍年間平均１００名（定員１００名）を達成できた。